

単元名 わたしたちの 野さいばたけ

配当時間 27 時間

- 単元の目標 (1) 野菜を育てる活動を通して、野菜も自分たちと同じように生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。
- (2) 野菜を育てるための準備や世話を工夫したり、野菜の成長の様子や自分の取組を絵や文などで表現したりすることができる。
- (3) 野菜の成長を楽しみにしながら、大切に野菜の世話をしようとする。

標準的な展開例

02060201_001

【準備等】野菜の苗（夏野菜を育てる場合）、野菜の種（冬野菜を育てる場合）、野菜の育て方についての講師依頼、栽培用土、肥料、移植ごて、じょうろ、1年生時に使った植木鉢、支柱、図鑑、ビニル紐、記録カード（野菜調べ、野菜日記）、画用紙、タブレット端末

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 春から栽培するのに適している野菜について話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知っている野菜について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・オクラ ・ナス ・ピーマン ・キュウリ ・ミニトマト ・ニガウリ 等 <p>★野菜作りの計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が育てたい野菜を決めるため、苗屋に行く計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 《持ち物》 安全帽子、筆記用具、探検バッグ、メモ用紙、カメラ 水筒 《調べること・聞きたいこと》 <ul style="list-style-type: none"> ・育てやすい野菜 ・おすすめの野菜 ・野菜の選び方 ・世話の仕方 <p>2～3 苗屋に行き、育てたい野菜を決める。</p> <p>★育てたい野菜を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○店員に聞いたり、売っている野菜を見たりして、育てたい野菜を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・これは何の苗ですか。 ・育てやすい野菜は何ですか。 ○苗屋から聞いたおすすめの野菜から、自分が育てたい野菜を選ぶ。 ○記録カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、スイカがいいなと思っていたけれど、自分の鉢で育てるのは難しいと教えてくれました。だから、お母さんが好きなミニトマトを育てることにします。これから育てるのが楽しみです。 <p>4～5 土作りをする。</p> <p>★野菜がよく育つように土作りをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 《準備するもの》 <ul style="list-style-type: none"> ・軍手 ・ショベル ・移植ごて ・牛ふん、肥料や腐葉土 ・バケツ等、児童にとって運びやすいもの ・マルチ（必要な場合） ○土作りの方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・畑を耕す ・肥料等を混ぜる ・畝を作る （・マルチをかける） ○役割を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・畑を耕す人 ・腐葉土を運ぶ人 ・畝を作る（全員） ○土作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農家の人など、栽培に詳しい人（野菜名人）に指導を受けられるように依頼しておく。 ・購入する苗屋へ、訪問することや話を聞くことは可能か確認しておく。 ・事前に保護者へ連絡を取り、アレルギーの有無を確認する。活動に当たっても、十分に配慮する。 ・児童は夏に採れる野菜や、どの野菜が育てやすいかどうかの知識は少ない。まず、知っている野菜について発表させ、それらについて詳しく知る方法を考えさせたい。 ・育てる野菜の苗を複数にすることで、自分の苗以外のものや友達の苗に自然と目が向くようにする。 ・記録カードは、教科書P.40～47「ものしりノート」を参考にして書かせる。 ・教科書P.44～45「ものしりノート（土づくり）」や、P.118を参考にして指導する。 ・体操服に着替えさせる。 ・畑を耕すと野菜がよく育つことを理解させたい。 ・ショベルを扱う際は、一度に扱う数を少なくしたり、畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。 ・土を素手でよくもみほぐしたり、土の中に残っている根などを取り除いて状態をよくしたり、腐葉土や堆肥を加えて、酸性土壌を改良したりするとよい。 ・活動後のうがい、手洗いを徹底する。以後も

- 土作りをして感じたことを記録カードに書く。
 - ・ミミズがたくさん出てきてびっくりしたけれど、いい土の証拠だということが分かりました。野菜も喜ぶと思います。

6～8 自分が育てる野菜の苗を植え、気付いたことを記録カードに書く。

★野菜の苗を植えよう

- 地域の農家の方（野菜名人）から、苗の植え方を教わる
- 用意した鉢、学年の畑に苗を植える。

- 苗植えの様子や気付いたことなどを交流する。
 - ・わたしのミニトマトと友達ナスでは、葉っぱの形が違って、不思議でした。
 - ・ナスは茎が紫色をしていました。
 - ・わたしのミニトマトは、もう花が咲いています。

- 気付いたことを記録カードに書く。
 - ・わたしのミニトマトは、他の野菜と比べると、葉っぱが小さかったです。けれど、もうトマトのにおいがしました。どんなふうに育つか楽しみです。これから丁寧に育てるからね。

9 野菜の様子を観察して、世話の仕方を考える。

★野菜が喜ぶ世話の仕方について考えよう

- 同じ野菜を育てているグループごとに分かれ、今の野菜の様子を観察する。
- 困っていることを中心に、全体場で話し合う。
 - ・わたしのミニトマトの草丈が伸びてきました。少し倒れてきています。

- 調べたことや今までの経験をもとにアドバイスをし合ったり、本やインターネット等で調べたりして、よりよい世話の仕方について考える。

- 調べたことを発表し、野菜の世話をする。
 - ・支柱を立てる ・土寄せする
 - ・雑草を抜く ・間引きする
 - ・追肥をする 等

10～14 必要に応じた世話をしたり、観察したことや世話したことを記録カードに書いたりする。

★大きく育った野菜のことを、みんなに伝えよう

- 野菜の世話をし、成長の記録をカードに書く。
 - ・この前支柱を立てたところに、ニガウリのつるが巻き付いてくれました。
 - ・わたしのミニトマトに花が咲きました。花が咲いたところから、実ができました。友達の〇〇さんはナスを育

同様に指導する。

【評】土作りや記録カードへの表現を通して「知識・技能」を評価する。

- ・自分の苗は必ず自分で植えさせ、愛着をもって継続的に野菜の世話を続けさせる。
- ・ビニールポットごと植えることのないように指導する。全員のポットを集めて、数を確認するとよい。
- ・発展の活動を意識し、苗植えの時から、活動の様子や野菜の姿などを教師がデジタルカメラ等で撮影しておくようにする。

- ・植える見えなくなるため、植える前に根の様子に意識を向けさせる。
- ・病気などで枯れてしまったり、鳥に食べられてなくなったりする場合がある。教師が予備の苗を育てておくようにする。
- ・理科との接続を意識しつつ、葉や茎の色や形、大きさ、手触り、におい、音、心で感じたことなど、諸感覚を使って観察する視点を与える。観察の視点はカードで示し、今後も同様な視点で観察することを伝える。
- ・野菜の成長への思いや願い、他の野菜と比べて気付いたことを書くように声掛けをする。
- ・記録カードの用紙は、児童がいつでも記入することができるよう、定位置に常備しておく

【評】記録カードへの表現を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・日常の観察に加え、授業の中でタイミングを見て全員で観察する機会をつくる。
- ・児童一人一人の野菜の様子を把握し、肥料、支柱などの準備をしておく。教師から指示するのではなく、児童からの求めに応じて、必要な物を与えるようにする。
- ・同じ野菜を育てている児童同士で観察させ、自分の物と比べさせる。
- ・児童の活動中の様子や発言を丁寧に聞き、思いや願い、疑問に寄り添った声掛けをしたり問い返したりする。
- ・野菜の成長の様子と合わせて、世話をしている困っていることも伝え合わせるとよい。
- ・1年生で花を栽培したときのことを想起させ必要な世話を考えさせるとともに、水やりや草取りなど、毎日必要な世話をする意欲も高めさせる。
- ・教科書P.118「そだてる。（野さいの世話）」を参考にして、考えさせてもよい。
- ・支柱と植物を結ぶ紐は緩めにしておき、植物の成長を妨げないようにさせる。

【評】世話の仕方を調べたり、実践したりすることを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・「見付ける、比べる、たとえる」などについては、自然に表現できるよう繰り返し指導したい。
- ・記録カードを教室に掲示したり、朝の会のスピーチで野菜の様子について発表したりして個々の気付きを全体で共有できるように計画するとよい。日常生活の中で気付いたそれぞれの野菜の特徴を伝え合い、交流する情報交換の場を大切にしたい。
- ・算数科と関連させ、長さや高さ、葉の枚数を比べると成長がよく分かる。
- ・前回の様子と比べたり、諸感覚を使ったりして表現させたい。
- ・教科書P.51の各野菜の花を見せ、特徴を考え

てているけど、ナスも同じでした。

- 観察をし、気付いたことを話し合う。
 - ・わたしのミニトマトは草丈がぐんと伸び、葉が横に広がってきました。
 - ・ぼくのオクラの葉がなくなっています。鳥に食べられたかもしれません。
 - ・わたしのキュウリの葉に、白い点々のようなものができてきました。病気が心配です。
 - ・明日台風が来るようだから、大丈夫か心配です。

- 野菜がもっと元気に育つには、どうするとよいか考える
- 本やインターネット等で調べる。
 - ・脇芽を摘む
 - ・鳥よけをする
 - ・重曹を混ぜた水を作る
 - ・鉢を教室や昇降口に避難させる

- 調べたことを発表し、野菜の世話をする。

- 野菜の成長の変化、世話の仕方について気付いたことを記録カードに書く。
 - ・〇〇さんが教えてくれた、重曹スプレーを使ったら、キュウリの葉っぱの白い物が薄くなってきました。元気になってくれて安心しました。これからもお世話を頑張ります。

15～16 野菜を収穫して気付いたことを記録カードに書いたり、伝え合ったりする。

★ぼく、わたしの野菜を収穫しよう

- 野菜を収穫する。

- 野菜を収穫して気付いたことを記録カードに書き、伝え合う。
 - ・ぼくのキュウリは、触るとチクチクします。野菜名人にも食べてみたいです。
 - ・わたしのミニトマトは、最初は緑色をしていました。上の方から赤い実ができることが分かりました。もっと世話をし、たくさん収穫したいです。

17～18 夏野菜の畑の後片付けをする。

★お世話になった畑をきれいにしよう

- 畑の後片付け方法を知る。

《手順》

・支柱を抜く ・草を抜く

・土をならす

《用意する物》

・軍手 ・ショベル

- 友達と協力して、夏野菜の畑などの後片付けをする。
- 畑を片付け、気付いたことを伝え合う。
 - ・キュウリの根っこを抜くのが大変でした。それぐらい大きくなったんだと思いました。

させてもよい。

- ・教科書P.117「つかう（デジタルカメラ、タブレットでうつす）」のように、苗、花が咲いて実になるまでの成長過程を撮影させるとよい。撮影した野菜の様子を見せながら、成長の気付きや、困ったこと等を友達に紹介できるようにさせたい。
- ・気付いたことその他に、困ったことについても取り上げ、世話の仕方について全員で考えさせるとよい。

- ・調べても解決できないときは、地域の野菜名人や上級生に聞いてみるよう声掛けをする。

- ・日常の世話のポイントを、成長に合わせて野菜名人に問い合わせられるようにしておくとうい。
- ・脇芽とは、葉や茎の付け根から出る芽のことで、脇芽を摘むことで大きくておいしい実がなる。
- ・暑くなってきたら、休みの前日に直射日光の当たらない場所に移すなど、枯らさないための対策を児童と一緒に考えたい。
- ・脇芽を摘むことに抵抗感がある児童がいたら無理に摘ませる必要はない。
- ・キュウリにうどんこ病の症状が出た場合は、重曹スプレー等を使用するとよい。

【評】野菜を観察し、変化を表現したり、よりよい世話の仕方を調べたり、実践したりすることを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・収穫量の少ない児童のために、予備の野菜を育てておきたい。
- ・収穫できるものと、そうでないものと見分け方を調べさせておき、自分の判断でどんどん収穫できるように指導する。
- ・実の付き方や、成長について発言した児童の発言から、他の野菜や、1年時に育てたアサガオと比べて考えさせたい。

- ・野菜によって収穫の時期が異なることや、衛生・安全面への配慮から、家庭で児童とともに調理し、試食してもらうよう保護者に協力を依頼する。
- ・家庭で野菜を食べたら、家の人の感想を聞いてくるよう指導する。保護者と事前に連絡をとり、野菜のおいしさに加え、長い間世話をしてきた児童の頑張りを認め、称賛してもらうように依頼しておく。
- ・夏季休暇中も世話や収穫が続くことがある。野菜や鉢を持ち帰ることや、夏季休暇中の世話については、事前に各家庭へ依頼をしておく。また、野菜の鉢は重たいため、懇談会の時間等を使って保護者に持って帰ってもらうよう計画するとよい。

【評】収穫した野菜の様子や喜びを表現することを通して「思考・判断・表現」を評価する

- ・根が強い野菜もあるため、軍手を用意させるとよい。
- ・ショベルを扱う際は、一度に扱う数を少なくしたり、畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。

【評】畑を片付ける作業を通して「知識・技能」を評価する。

- ・畑さんにありがとうございます。
- 19～20 記録カードを活用して、これまでの栽培活動を振り返る。
- ★ぼく、わたしの野菜について、まとめよう
- 新聞にまとめたいことを伝え合う
 - ・ミニトマトの成長の様子をまとめたいです。
 - ・お世話を頑張ったことについてまとめたいです。
- 自分が書きたいテーマをもとに、新聞を作る。
- 21 これまでの栽培活動を通して、気付いたこと分かったことを伝える。
- ★ぼく、わたしの野菜のことをみんなに紹介しよう
- 3～4人のグループを作り、伝え合う。
- 話し合いで気付いたことや、単元を通して学んだことを発表する。
 - ・虫が付いて大変だったけれど、最後まで一生懸命育てました。ミニトマトもたくさんできて嬉しかったです。
- 22～23 夏野菜の経験を生かして、冬野菜の中から育てたい野菜を決め、野菜の種まきをする。
- ★冬野菜を育てよう
- 冬野菜について話し合う
 - ・カブ ・ニンジン ・ダイコン
 - ・レタス ・コマツナ
- 育てたい野菜を決めて、育て方を調べる。
- 土作りの手順を確認する。
 - 《準備するもの》
 - ・軍手 ・ショベル ・移植ごて
 - ・牛ふん、肥料や腐葉土
 - ・もみがら
 - ・バケツ等、児童にとって運びやすいもの
 - 《手順》
 - ・畑を耕す ・肥料等を混ぜる
 - ・畝を作る
- 土作りをする。
- 種のまき方を知る。
- 野菜の種をまく。
- 24 野菜の様子を観察して、成長に合わせた世話をする。
- ★野菜を観察しよう
- 野菜を観察し、気付いたことを記録カードに書き、書いたことを伝え合う。
 - ・ニンジンの葉は、ダイコンと比べると細いです。
 - ・ニンジンの葉は、もう大人のニンジンと同じ形をしています。
- 間引きなど、必要な世話をする。

- ・教科書P.115「はっぴょうする」を参考にして、発表方法のモデルを示す。（ポスター、新聞、紙芝居、マップ等）
- ・今までの記録カードをまとめ、本にする活動も考えられる。
- ・育てて発見したこと、楽しかったことや嬉しかったこと、野菜の命を育てる苦労などを振り返らせて、まとめたいことを考えさせたい
- ・苗植えや日々の世話、収穫のときのことを書いた記録カードや写真などを手掛かりとしてそのときの思いや感想を表現できるようにする。
- ・グループ構成は、種類の異なる野菜を育てた児童同士にしたい。育て方や成長の仕方を紹介し合うことで、野菜の育ち方には共通点があることに気付かせたい。
- ・世話ができるようになった自分の成長に気付いている児童の意見を称賛し、全体に広げる
- ・野菜名人にお礼の手紙を書いて、感謝の気持ちを届ける活動を取り入れてもよい。
- 【評】学習を振り返り、野菜の成長を伝え合う活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・児童の発達段階を考慮した図鑑や園芸書を用意しておき、児童が自分の力で調べられる環境を整えておく。
- ・今から育てられる野菜は何か、本やインターネット等で調べさせる。
- ・1学期と同様に、野菜名人にボランティアの依頼をしてもよい。
- ・記録カード（野菜調べ）に記入させる。
- ・調べることが難しい児童には、教科書P.42～43「ものしりノート（野さいのそだて方）」を参考にして考えるよう支援する。
- ・地域の方に野菜の育て方について相談ができるようにしておく。
- ・教科書P.44～45「ものしりノート（土づくり）」、P.118を参考にして指導する。
- ・アブラナ科野菜のダイコンには、モンシロチョウや蛾の幼虫が寄生して葉を食害するためセリ科のニンジンなどを近くに植えるとうい
- ・ショベルを扱う際は、一度に扱う数を少なくしたり、畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。
- ・生活科の時間だけでなく、休み時間などにも常時観察や世話ができるようにし、野菜の変化や成長についての気付きを促す。
- ・本葉が咲いた頃に観察するとよい。
- ・「見付ける、比べる、たとえる」などについては、自然に表現できるよう繰り返し指導したい。
- ・教科書P.117「つかう（デジタルカメラ、タブレットでうつす）」のように、野菜の成長過程を撮影させるとよい。
- ・1年時に育てたアサガオと同様、もっと大きく育つには間引きする必要があることを伝え

25 成長の様子を観察して、必要な世話について話し合う。

★大きくなった野菜を観察しよう

○野菜を観察し、気付いたことを記録カードに書く。

- 困っていることを中心に、気付いたことを伝え合う。
 - ・育てているハクサイに、黒い虫がたくさん付いている。
- 調べたことや今までの経験を基にアドバイスをし合ったり、本やインターネット等で調べたりして、よりよい世話の仕方について考える。
 - ・キュウリやミニトマトも、病気になったり、虫が付いたりしたときに薬をかけたから、葉っぱに薬をかけたらいいと思います。
 - ・ハクサイは、葉っぱを食べるから、あまり薬はかけたくないです。虫をとったらいいいと思います。
- 必要に応じた世話をする。

26 野菜を収穫して、気付いたことを記録カードに書いたり伝え合ったりする。

★ぼく、わたしの野菜を収穫しよう

- 野菜を収穫する。
- 野菜を収穫して気付いたことを記録カードに書き、伝え合う。
 - ・ダイコンは土に隠れていて分からなかったけれど、こんなにも大きく育っていてびっくりしました。
 - ・冬野菜は土の中で育つものが多いのかな。
- 収穫した野菜をどうするか話し合う。
 - ・大きく育ったダイコンを絵にかきたい。
 - ・持って帰って家の人に見せたい。
 - ・野菜パーティーを開きたい。

27 野菜の畑の後片付けをする。

★お世話になった畑をきれいにしよう

- 畑の後片付け方法を知る
 - 《手順》
 - ・支柱を抜く ・草を抜く
 - ・土をならす
 - 《用意する物》
 - ・軍手 ・ショベル
- 友達と協力して、畑の後片付けをする。

る。

- ・本葉が2枚の頃に1回目の間引きをし、本葉5、6枚の頃には2回目の間引きをし、1本立ちにする。

・タブレット端末を使って記録させてもよい。

- ・撮影した野菜の様子を見せながら、成長の気付きや、困ったこと等を友達に紹介できるようにさせたい。
- ・気付いたことの他に、困ったことについても取り上げ、世話の仕方について全員で考えさせるとよい。
- ・根の肩が出ていたら土寄せする。

【評】世話の仕方を考えたり工夫したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する

- ・ダイコンの葉が立ち上がってくる。立ち上がった葉の先端が垂れてきたら収穫するとよい

- ・いくつか収穫せず残し、冬野菜も花が咲くことを紹介するのもよい。
- ・夏野菜を思い出し、野菜の特徴や成長の様子育て方の違いなど、いろいろな視点で比べさせてもよい。

【評】野菜の成長や気付いたことを伝え合う活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・発展的な活動は各学校の実態に合わせて考えてもよい。

- ・ショベルを扱う際は、一度に扱う数を少なくしたり、畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。

【 備 考 】

- ・1年生時における栽培経験を基に、諸感覚を使って試行錯誤しながら野菜を育てたり、友達のと比べたりして、観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を付けさせたい。また、活動を通して、野菜と共に自分も成長していることや、最後まで野菜の世話ができた自分のよさにも気付かせたい。
- ・1年生で育てたアサガオは種から育てたが、夏野菜については種から育てることは難しいため、苗から育てるようにする。野菜との出会わせ方については、学級または学年で苗屋に行き、苗屋に聞いて自分が育てたい野菜を決めさせる。なお、冬野菜は種から育てるようにしたい。